

グローバルな人材育成に力を入れる大阪市立水都国際中学校 高等学校——多彩な実践的教育に活用される Google for Education

大阪市住之江区にある大阪市立水都国際中学校 高等学校は、全国初の公設民営の中高一貫教育校として 2019 年に開校した学校です。同校ではグローバルで活躍する人材の育成を教育理念に掲げ、学習指導要領で定められた科目以外に、国際理解を深めるプログラムを実践しています。また授業だけでなく、課外活動においても生徒の自主性を重んじた取り組みが行われており、そのなかでは Google のさまざまなソリューションが活用されています。





Suminoe

大阪市立水都国際中学校 高等学校
大阪市住之江区南港中 3-7-13
<https://osaka-city-ib.jp/>

2019 年 4 月、大阪市と民間の学校法人 大阪 YMCA による全国初の公設民営の中高一貫校として開校。外国籍の教職員の数が全体の 4 割を数えるなど、校名に「国際」の名を冠するように中学・高校と一貫したグローバル人材の育成に力を入れています。



Chromebook

Chromebook Google Workspace for Education

160 台 使用 320 ライセンス 使用

01

“当たり前のツール”として開校時から ICT を積極導入

大阪市の市立ながら民間の学校法人・大阪 YMCA が運営する水都国際中学校・高等学校は、中学・高校ともにグローバル教育とコミュニケーションを重視した学習プログラムを実施し、授業でも ICT を積極的に活用し、2019 年の開校時から ICT 導入を進めてきました。中学校の美鳥 佳介教頭は、次のように話します。

「ICT については、特別なものという意識では捉えていません。生徒自身が ICT のハードウェアやソフトウェアを文房具と同じ感覚で、当たり前にあるものとして使いこなし、学びに臨む。それによって学校としての教育目標を達成することが、私たちの目指すところです」(美鳥教頭)

同校では、中学校の 2 学年(1 学年 80 人)に 1 人 1 台、計 160 台の Chromebook を貸与している一方、高校生 2 学年(同じく 1 学年 80 人)については、各自が用意したプライベートの Windows 10 パソコンを学校に持ち込む、いわゆる BYOD (Bring Your Own Device) のスタイルで ICT 教育を実践しています。中学、高校の全生徒約 320 人は、それぞれが固有の

大阪市立水都国際中学校 高等学校



中学校教頭
美鳥 佳介 氏



メディアセンター
Sugu Althomsons 氏

理科・情報科教諭
原田 有 氏

Google for Education

Google アカウントを保有し、Google Workspace for Education (以下、Google Workspace) を利用しています。

Google のソリューションの利用指針について、同校メディアセンターで ICT 責任者を務める Sugu Althomsons 氏は次のように説明します。

「基本的に Google Workspace の設計仕様に則り、本校のニーズに合う形で使っていきたいと考え、実践しています。そのうえでクリエイティブな使い方のアイデアがあれば、積極的に取り入れるようにしています」(Althomsons 氏)

では、具体的に Google Workspace をどう使っているのでしょうか。メディアセンターで学校全体の ICT 活用を先導する理科・情報科教員の原田 有教諭はこう語ります。

「授業の準備、Google ドキュメント / Google スプレッドシート / Google スライドなどを使った授業でのリソース展開、成績管理、さらにはコミュニケーションツールとしても、Google Workspace を便利に使っています。教員が個々の授業のアイデアをもとに適切な授業計画を作成する際にも利用しています」(原田教諭)

現在、授業で最も使われているのは Google Classroom (以下、Classroom) だといいます。Classroom を通じて各教員が

課題を出題し、あるいはテストを配布して、各生徒の回答などを評価、そして生徒へのフィードバックまで行っています。

教員によっては前任校で Microsoft の Office を利用しており、Word や Excel で作成した資料を授業で活用したいというケースもあります。その場合も、基本的には Word なら Google ドキュメント、Excel なら Google スプレッドシート に置き換えているケースがほとんどのことです。

また、新型コロナウイルスの感染拡大による休校措置期間にはオンラインでの遠隔授業を実施しました。その際、よく活用していたのが Google サイトです。「出欠の管理、授業の時間割確認、学校行事に関するオリエンテーションの準備やプレゼンテーション資料の作成、生徒からの発信など、多様な用途に利用する Web サイトを Google サイトで構築したのが、当校の特徴的な取り組みといえるでしょう。Google サイトでは教職員のみがアクセスできるサイトも立ち上げ、教職員同士の情報共有にも活用しています」(原田教諭)

同校は授業などでプレゼンテーション資料を作る機会が多く、中学生に配布している Chromebook は、プレゼン資料の作成にも便利だと原田教諭は評価します。

02

使いやすさを兼ね備えた グローバル スタンダードの魅力

ところで、数ある教育向け ICT ソリューションの中で、同校はなぜ Google を選択したのでしょうか。美鳥教頭は次のように指摘します。

「一番は、コストメリットです。資金に限りがある公立学校にとってやはり大きいですね。そして、Google のアプリはグローバルスタンダードであることもポイントです。生徒にとってのメリットとしては、まず操作が簡単だということ。ICT を文房具と同じように使いこなすには扱いやすくなればなりませんが、この点でも Google のソリューションはアドバンテージがあると思います。そして、共同編集などのコラボレーション作業を容易に行えること。これも強調したい点です。一方、教員側からすると、さまざまな機能が学校の現場をよく考えて作り込まれており、成績の算出をはじめ、かゆいところに手が届く機能が数多く備えられています」(美鳥教諭)

同校では 2018 年から ICT ツールの検討を始め、こうした利点を総合的に評価し、Google Workspace の採用を決定したといいます。





Chromebook の貸与を中学生のみに限定した理由としては、「操作が簡単だから」と Althomsons 氏。「1 人 1 台環境を構築したいという思いがありました。中学生はこれから ICT を学んでいくため、使いやすく、セキュリティも高い端末が適していると考え、Chromebook を選びました。Google のアプリとの親和性の高さももちろん理由です。高校生については、ICT 活用の技術だけでなくリテラシーやセキュリティも自発的に学んでほしいと考え、かつ Google 以外のソフトの使い方も身につけるために、BYOD としました」

ちなみに教員は Windows 10 搭載パソコンで、各教員 1 つずつの Google アカウントを利用しています。全生徒、全教員が固有のアカウントを使っており、共有アカウントは利用していないとのことです。

03

生徒が課外活動に自主的に活用、今後も先駆的事例を発信していく

Google Workspace は授業や成績評価・管理だけでなく、放課後の部活動や生徒会活動で生徒が積極的に活用しているのも同校の特色です。

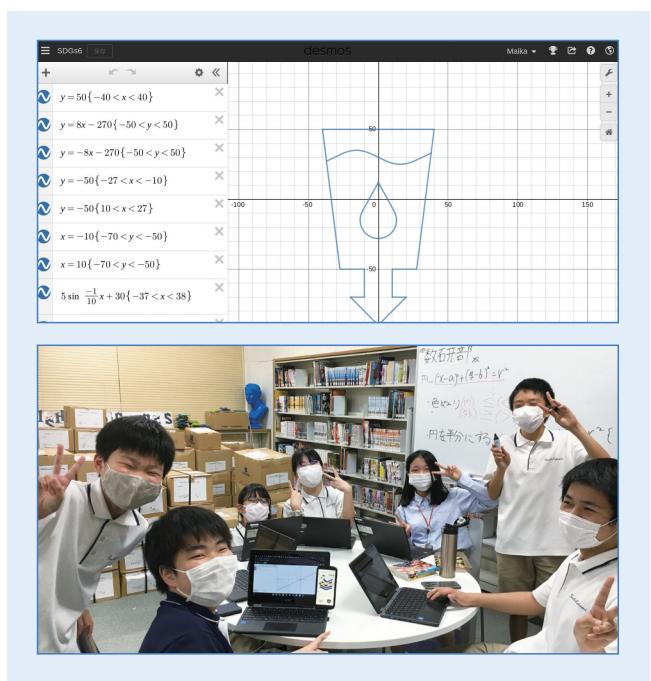
授業でプレゼンテーション資料を作る機会が多い同校ですが、生徒たちは授業で身につけた ICT のスキルを課外活動にも活かし、発案した活動のアイデアを Google Workspace を使って教員たちにプレゼンテーションする文化が浸透しています。

「教員が課外活動のために Google ドキュメント / Google スプレッドシート / Google スライドなどの操作方法を教えることはありません。生徒たちは自分で調べ、準備し、自主的に発信しています」と原田教諭。そうしたアイデアから、オリジナルな課外活動の数々が生まれています。例えば 2019 年の中学生 1 年生は、Chromebook を操り、SDGs (持続可能な開発目標)

「オンライン授業はコロナのときが初めての試みでした。実際にしていくうちに、さまざまな課題も見えてきました」と原田教諭。「オンライン授業の期間中は、Google Workspace の機能を使い、スクリーンに各クラスの授業の様子をリアルタイムで映し出していました」と、John Botting 副校長も振り返ります。

オンライン授業の教育効果を高め、生徒たちの理解度を深めるにはどのような工夫をすれば良いのか。同校はアクティブラーニングを導入していることもあり、アクティブラーニングとオンライン授業をどう両立していくかについて、メディア センターの ICT 担当と教員たちが一緒に、議論が重ねられました。その結果、拡張機能を活用して生徒 1 人ひとりの端末に教師の端末の画面を映し出し、コメントのやり取りを行えるようにするなど、新しい使い方も導入しました。これによって、授業中に生徒たちが自分の考えを表現することが可能になっています。

「歴史の授業では、歴史上の出来事を調べ、Google マップ 上にその出来事に関するピンを立てるなど、Google の多彩なツールを活用するアイデアが生まれました。教員が自分で作成した動画を授業で活用したり、Google 図形描画 の機能を情報の授業で利用したりと、バラエティあふれる使い方が実際に行われています。ICT に詳しい原田教諭がツールの活用方法を見つけ出し、各教員に伝えていく役割も果たしています」と Althomsons 氏は言います。



Google for Education

の 17 のゴールをそれぞれ関数で表現して、文化祭で発表するユニークな取り組みを行いました。中学生が Chromebook を 1 人 1 台使えること、そして Google Workspace のさまざまなツールを活用できること。このメリットが、授業以外の活動でも大きな教育効果をもたらしています。子どもはとにかくアイデアが豊富。こんなことができないかな、こんな使い方をしてみたいなという斬新なアイデアに、教師たちはいつも驚かされています。Google のソリューションが、そうしたアイデアの創出を刺激してくれるのでしょうか」と原田教諭は評価します。

今後の展望について、先生方に伺いました。まず Botting 副校長はこう語ります。

「繰り返しになりますが、まずはやはり文房具のように当たり前にあるものとして ICT を活用し、教育効果を最大限高めていくことが学校としての目標です。また、当校は大阪市から他校の ICT

活用のキーになるというミッションも与えられているので、アイデアを具現化して先駆的な事例を試し、その効果を伝えていきたいと思います」(Botting 副校長)

続いて、ICT 活用の責任者である Althomsons 氏は「教育機関として、ICT を使いこなす中で社会問題に対するリテラシーを高めていかなければなりません。その参考になるような取り組みも積極的に発信していきます」と力強く答えてくれました。

最後に美鳥教頭は、こう締めくくりました。「ICT の活用が進んでいく中で、教育現場が浮足立ってはいけないと考えます。ICT を使うからといって、従来の教育の方針が変わらなければなりません。学校としての基本的な理念に立脚したうえで、さまざまな試みから得られるノウハウを蓄積し、教育におけるより良い ICT 活用を目指していきます」

Google for Education

いつでも、どこでも、予算に応じて使える
教育テクノロジーソリューションです。

Google for Education の特徴	
<input checked="" type="checkbox"/> 簡単操作	<input checked="" type="checkbox"/> 手ごろな価格
<input checked="" type="checkbox"/> 高い汎用性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い効果

chromebook

1 教育向けに設計され、授業向けに開発された
軽量で耐久性の高い共有可能なノートパソコン

Google Classroom

2 教師と児童生徒向けに構築された
学習プラットフォーム

Google Workspace for Education

3 時間や場所を問わず学校全体で共同利用できる
クラウド型教育プラットフォーム

Chrome Education Upgrade

4 1 つの端末から同じドメインのすべての
Chromebook を設定
シンプルなクラウド型管理コンソール

